木田市長のど～んとコミュニケーション

真珠のように輝くまちづくりのために

vol.50

自然災害への心構え

台風18号が大きな被害をもたらしました。

漁業のためにも「たまには台風がやってきて海底をひっくり返すことも必要」などといわれることもありますが、やはり災害はない方が良いと実感させられました。

10月8日の午前4時ごろ、それまで吹き荒れていた暴風が急にやんで静かになりました。おそらく、台風の目の中に入ったのでしょう。もう台風は去ってしまったのかなと思っていたところ、吹き返しの風が猛烈に強くなりました。市役所の窓の網戸がその風で横に動いてサッシに当たり、「バタンバタン」と音をたてるほどの風でした。

台風の影響で、多くの市民のみなさまが、停電などにより大変不自由な思いをされたと思います。

また、浦村の「カキいかだ」が受けた被害は甚大です。今年のカキは豊作だと聞いて喜んでいた矢先の大きなダメージにショックを受けているところです。

台風が近づいているとき、対策本部を開いて避難勧告の発表について協議を続けました。今回学んだことは、本当に避難が必要になったときでは、勧告を出すのはもう遅いということでした。まだ風雨が穏やかなうちに、まだ明るいうちに、前もって避難をしていただくということが今後、重要になってくると思います。

台風に先立つ10月3日、岩倉町自主防災会主催の避難所生活体験会が開かれました。加茂小学校の体育館で実際に夜を明かし、避難所での生活がどのようなものなのか。どんな苦労があるのか。頭で考えているだけでは分からない多くのことに気付いてもらおうという試みです。

避難所での生活に詳しい講師のかたから、台風や地震など災害が発生したときの避難所での実際の生活や問題点について話がありました。

避難所では停電で夜は真っ暗になってしまうとか、断水でトイレも使えなくなるとか、寝ている人を踏みつけながらトイレへ通わなければならないとか、普段の生活とまったく違う非常時の大変さというものが浮き彫りになりました。

避難所生活が1か月、2か月と続けば、病気になる人も出てきますし、精神的に参ってしまう人も多くなります。

いざというときの心構え、物品的な準備など市民も行政も普段からよく考えていかなければならないと思います。

今回の台風は、「避難」ということについて改めて考えさせられる良い機会となりました。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.88

今の自分を受け入れる

あなたは、誰かを応援したいとき、相手にどういった言葉を掛けますか。

まず思いつくのが「頑張れ」ではないでしょうか。とても良い言葉だと思うのですが、慎重に使いたいと思うようになったのは、次のような話を聞いてからでした。

ある本の著者が「○○さん、頑張ってください」と何気なくかけたその一言に、相手の人はポロポロと涙を流しながらこう言ったそうです。

「自分は今まで頑張って、頑張ってきました。もうこれ以上頑張れません」

そのとき、それまでとても良いと思っていた言葉が、ときには人を傷つけるということに初めて気付いたそうです。

自分はまったく頑張っていない、という人があなたの周りで何人いるでしょうか。

情報があふれる時代で、大人もこどもも、それぞれの速度でそれぞれの明日へ向かって、一生懸命に今を生きています。

まずは自身のことを振り返ってみて、精一杯の自分を受け入れてあげてみてください。

実際に自分でやってみます。「あれもこれもできていない、もっと頑張れ！」

やる気は隠れてしまったようです、出てきません。

替わりに「いつも本当に頑張ってるね、おつかれさま」と声を掛けてあげてみてください。なんだか少し肩の力が抜けて、温かい気分になってきました。

そこまで単純な人は少数派かもしれませんが、自分が言われたいと思う言葉を、次はあなたの隣で頑張っている人に贈ってみてはいかがでしょうか。